

<2020年度 オリンピック・ムーブメント事業>

オリンピック教室

実施報告書

茨城県 潮来市立日の出中学校

Olympic
Movement



公益財団法人日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「オリンピック・ムーブメント事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和2年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 実施目的** : オリンピアン(オリンピック出場経験アスリート)が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことのできるものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン(オリンピック出場経験アスリート)
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 2020年4月～2021年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 80校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目
運動の時間(50分)



2コマ目
座学の時間(50分)



※学校の通常の授業時間に実施

※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1コマ目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」
等を伝える



個人またはグループワーク
で話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって変動する場合があります

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間・座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

実施内容

■期 日 : 2020年12月8日(火)

■ク ラ ス : 2年A組(26名)、2年B組(26名)

■オリンピアン : 小塚 崇彦 先生(スケート/フィギュアスケート)【出場オリンピック/バンクーバー大会】

■授業のながれ: 運動の時間 (時限)

・自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ 準備体操



・自己紹介の後、3つのオリンピックバリューについて、「エクセレンス」=卓越。昨日よりも今日、今日よりも明日、どんどん良くなるためにはどうしたら良いか考えることが必要。「フレンドシップ」=友情。友達を思いやり、友達と仲良くし、チームワークを大切にすること。「リスペクト」=敬意/尊重。相手を思いやる気持ちや、ルールを守ることが大切である。運動の時間ではからだを動かしてオリンピックバリューを感じて欲しいと授業の目的を確認。

・主運動 等



・現役時代、試合前に行っていた準備運動を紹介し、小塚先生も一緒に混じり競争した。その後、新聞じゃんけんバランスを2回実施。新聞を折った回数の合計が多い班の勝ち。



・主運動では、サッカーボールを使用しボール渡しリレーを実施。着順に点数を付ける方法を用い、着順が遅くても、逆転の可能性があるので、ルールをよく理解し、チームで工夫するように伝えた。ルールに対してどのように考え、それを相談する仲間がいて、チームとして一緒に行うからこそオリンピックバリューを感じることができる。次の座学の時間で、映像を交えて詳しく話すので伝え、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（時限）

- ・自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・バンクーバー大会の映像を見ながら、フィギュアスケートのルールや当時の思い出について話す。近代オリンピックを復活させたクーベルタンは、スポーツを通じてより良い世界を作ること目標に掲げ、「自分のことを知り、奮い立たせ、律することができる人。そして、自分自身に打ち勝つことができる人が理想の人間像である。」と説き、そのような人間を育成するために3つのオリンピックバリューを提唱したと伝え、この時間はオリンピックバリューについて考えていこうと、授業の目的を確認。

- ・個人ワーク～グループワーク 等



・個人ワーク発問：運動の時間を振り返り、感じたことを書き出してみよう。
 エクセレンス：「チームで勝つために作戦を立てる」「負けそうになっても最後まで諦めない」等。フレンドシップ：「みんなで頑張る」「チームワーク」等
 ・グループワーク発問：オリンピックバリューを学年末試験にどのように活かすか考えよう。
 エクセレンス：「日頃の授業をきちんと聞く」「テストの見直しをする」「次のテストに向けて人一倍努力する」等。フレンドシップ：「できなかった問題を友達と共有して勉強する」「お互い勉強を教えあう」等。リスペクト：「テストを作ってくれる先生に対する感謝」等



・選手時代に自分を支えてくれた人達に感謝し、自身も感謝してもらえるように若い選手達を支えたいと思う。それがオリンピックバリューに繋がると思っている。オリンピック選手のように頑張る素質がある点は皆も同じなので、目標を達成するために日々頑張りたいと伝え、授業終了。

■ 修了証贈呈

